

夏休みエコ絵画コンクールは、千葉県が進める「総合的な環境学習の推進事業」に基づき、平成18年度より、千葉県内を対象に開催しており、毎年1万人を超える児童が参加しています。



このコンクールは、不要なもの、価値がなくなったものについて考え、ごみを減らしていくことは自分たちの務めだということを自然と気づかせます。そして「将来こんなふうになったらいいな」というアイデアを空想するとき、子どもたちはとても楽しく夢を膨らませます。コンクールの人気の秘密がそこにあります。表現は絵画とコメントでしますが、絵が苦手な人にも取り組みやすいのが特長です。

●コンクールのねらい

自分たちを取り巻く環境や地球資源の大切さを感じ、学び、考えるきっかけを提供することを第一の目的としています。

「資源循環の持続可能な社会形成」は地球全体の課題です。したがってこれまでの応募作品はどれも地球愛に溢れています。

子どもたちが画用紙に向かうとき、まずは生まれ育つ千葉県を美しいふるさととして大切に思う気持ちが芽生えるでしょう。それが愛国心につながると良いと思っています。

●授業やご家庭で

「未来のごみ箱」は図工教科だけでは完成しません。身の回りや実社会で起こったニュース、社会科、理科、総合的な学習の時間、道徳、学校生活にヒントがあります。

●先生や保護者の皆さまに

皆さまにお願いいたします。低学年には、使い捨ての実態やおもちゃの寿命を例に意見を出し合う時間を設けていただけませんか。中・高学年では、清掃工場の見学や地域社会、千葉県の理解と関連させ環境問題のお話をしていただけませんか。

ほんの少しの話し合いが子どもたちの想像力を湧き上がらせるきっかけになるでしょう。

●学齢に応じて

学年を問わず、子どもたちの視点は広く、ごみを減らすためのアイデア、出さないアイデアは大人を感心させるのに十分です。低学年でも楽しく取り組んでいます。「整理整頓」や「環境美化」はコンクールの趣旨から外れますのでご注意ください。

●先生方の声

昨年、作品応募時にいただいた声を抜粋して紹介します。

社会科の学習の中で「ごみがどのように処理されていくか」「将来に向けて、この増え続けるごみをどのように解決していったらいいのか」を学びました。ゴミを捨てない工夫、リサイクル等、自分たちでできること、取り組みたいことを話し合い、子ども達の意識が高まっていたところでこのコンクールに取り組みました。子どもたちは、未来の地球について、海・山・家にどのようなごみ箱があるとよいか想像しながら、楽しそうに意見を出し合いながら取り組んでいました。〈市原市〉

環境学習のまとめとしてこのコンクールに取り組み、児童が考えたものを絵画として表現することを通じて環境や社会課題について理解を深めることができます。また、他者の作品を見たり話し合ったりすることで、自分にはないアイデアや新しい知識を習得することもできるので、児童の考えを表現し交流するツールとしても大きな役割を果たしています。〈柏市〉

毎年、夏休みの課題の一つとして取り組んでいます。夏休みの間に、家族の方と一緒に環境やごみ問題について考え、様々なことを話し合っって作品づくりをしていることが見受けられます。その中で環境に目を向け、身のまわりをきれいにする気持ちも高まってきたのではないかと思います。〈白子町〉

今までは夏休みの課題として取り組んでいましたが、学習の中に位置づけることで、友達と話し合いながら楽しく取り組むことができました。友達との関わり合いの中でアイデアを膨らませたり教科書やノートを見返したりと環境問題を身近な問題として捉えながら理解を深めることができました。〈千葉市〉